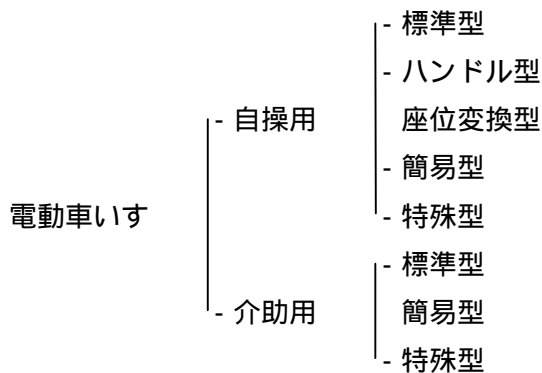


電動車いすの種類

～利用者用引き 29 頁 電動車いすの種類～

電動車いすは、「自操用」と「介助用」の2種類に分けられる。
ここでは次に示すような電動車いすの種類等について説明する。

電動車いすは、次のように分類されている。



この中で、一般的によく見かけるのは、自操用ハンドル型、自操用標準型及び自操用簡易型である。

自操用ハンドル型には三輪タイプと四輪タイプがあり、操舵は、直接ハンドルを操作することにより行う。

自操用標準型の操舵は、一般的にジョイスティックレバーを操作することにより行う。

自操用簡易型は、手動車いすに電動機を取りつけた車いすであり、自操用標準型と同様、操舵はジョイスティックレバーを操作することにより行う。



自操用ハンドル型



自操用標準型



自操用簡易型

電動車いすの点検

～利用者用引き 30 頁 電動車いすの点検～

ねらい

電動車いすの日常点検はややもすると軽視されがちであるが、安全な状態を保持して利用することが安全上重要であることを理解させること。

ポイント

日常（出発前）点検と定期点検を必ず行うこと。

内容

次の点検項目に基づき、日常（出発前）点検、定期点検を行うよう指導する。

点検項目一覧

点検箇所		点検内容	チェック欄	
			ハンドル 型	ジョイ スティック型
ランプ	・バッテリー残量計	残量は十分か		
	・ヘッドランプ ・ウインカーランプ	点灯・点滅はするか、 破損・汚れはないか		
	・電源（キー） ・前後進切り替え ・最高速設定 ・ホーン、ウインカー	正常に作動するか 後進時に警告音が鳴るか ホーン及びウインカーは作動するか		
レバー (ノブ)	・アクセル ・クラッチ	スムーズに作動するか 正常に作動するか		
駆動部	・モーター	異常音がないか		
	・ギアケース	油漏れはないか		
	・タイヤ	空気圧は正常か、 亀裂・破損・摩耗はないか		
ハンドル		スムーズに作動するか		
その他		バックミラー・反射材に 汚れはないか 電気配線、コードに 破損や緩みはないか		

注記：型式や仕様によって該当しない部分があります。

高齢者の特徴

高齢者は、身体的な衰えを含めさまざまな特徴をもっている。
 高齢者の一般的な肉体的、運動的、心理的特徴について次に示す。

高齢者の特徴

視聴覚機能の低下	聞き落としや見落としで、周りのことに気がつくのが遅れたり、気がつかなかったりすることがある。
速度・距離判断力の低下	特に横断の判断では、走ってくる車のスピードや距離感がつかみにくくなる。
反応の鈍化	障害物を発見しても、それを回避する行動を起こすまでの時間が思いのほか長くなる。
依存性が強まる	他の人の行動に合わせる傾向が強まり、自分で判断しなくなる。

1. 電動車いすの普及台数（出荷台数）

電動車いすの出荷台数は全国で33万台以上（累積）となっている。（電動車いす安全普及協会調べ）

特に、最近はハンドル型四輪タイプの電動車いすが普及してきている。

普及協出荷台数表 (台)

年 度		84(S59)	85(S60)	86(S61)	87(S62)	88(S63)	89(H01)	90(H02)	91(H03)	92(H04)	93(H05)	94(H06)
ジョイスティック型	標準型	単年	2,400	2,400	2,400	2,600	2,500	2,800	3,000	3,300	3,600	3,600
	標準型	累計	15,600	18,000	20,400	22,800	25,400	27,900	30,700	33,700	37,000	40,600
ジョイスティック型	簡易型	単年										
	簡易型	累計										
小計	単年											
	累計											
ハンドル型	三輪型	単年	1,000	2,300	3,000	3,700	7,500	12,000	16,000	18,000	17,200	16,600
	三輪型	累計	1,000	3,300	6,300	10,000	17,500	29,500	45,500	63,500	80,700	97,300
ハンドル型	四輪型	単年										
	四輪型	累計										
小計	単年											
	累計											
合計	単年	0	3,400	4,700	5,400	6,300	10,000	14,800	19,000	21,300	20,800	20,200
	累計	15,600	19,000	23,700	29,100	35,400	45,400	60,200	79,200	100,500	121,300	141,500

年 度		95(H07)	96(H08)	97(H09)	98(H10)	99(H11)	00(H12)	01(H13)	
ジョイスティック型	標準型	単年	3,600	3,600	3,700	3,510	3,150	2,864	2,327
	標準型	累計	47,800	51,400	55,100	58,610	61,760	66,359	68,637
ジョイスティック型	簡易型	単年	30	760	1,800	2,510	2,820	3,732	3,562
	簡易型	累計	30	790	2,590	5,100	7,920	11,961	15,097
小計	単年	3,630	4,360	5,500	6,020	5,970	6,596	5,889	
	累計	47,830	52,190	57,690	63,710	69,680	78,320	83,734	
ハンドル型	三輪型	単年	17,600	20,000	20,300	20,250	23,870	10,148	4,849
	三輪型	累計	114,900	134,900	155,200	175,450	199,320	188,958	195,184
ハンドル型	四輪型	単年					18,973	22,568	
	四輪型	累計					33,679	52,972	
小計	単年	17,600	20,000	20,300	20,250	23,870	29,121	27,417	
	累計	114,900	134,900	155,200	175,450	199,320	222,637	248,156	
合計	単年	21,230	24,360	25,800	26,270	29,840	35,717	33,306	
	累計	162,730	187,090	212,890	239,160	269,000	300,957	331,890	

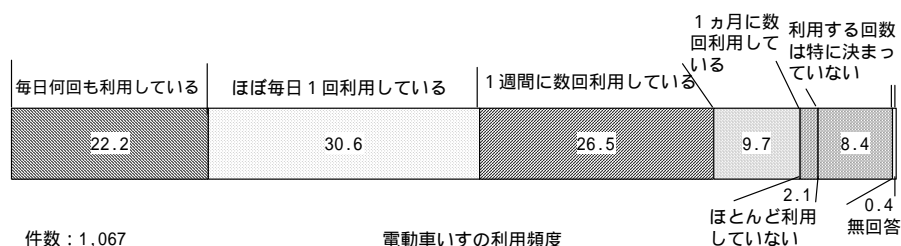
注記1) '99までは、三、四輪型の合計台数。

2. 電動車いす利用者の実態

ここで紹介する資料は警察庁からの委託を受け、(財)国際交通安全学会が平成13年に実施したアンケート調査結果の一部である(電動車いす利用者1,211人)。

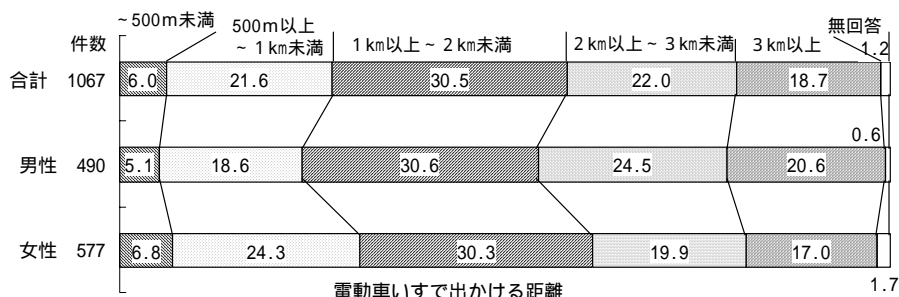
(1) 電動車いすの利用頻度

電動車いすの利用頻度をみると、スクーター(ハンドル)型電動車いすでは、「毎日何回も利用している」と答えた者が全体の22.2%、「ほぼ毎日1回利用している」と答えた者が30.6%となっており、毎日1回以上利用している者が半数を超えている。標準(ジョイスティック)型では当然のことながらそうした利用頻度はさらに高く、毎日1回以上利用している者の比率は76.3%という高さになっている。



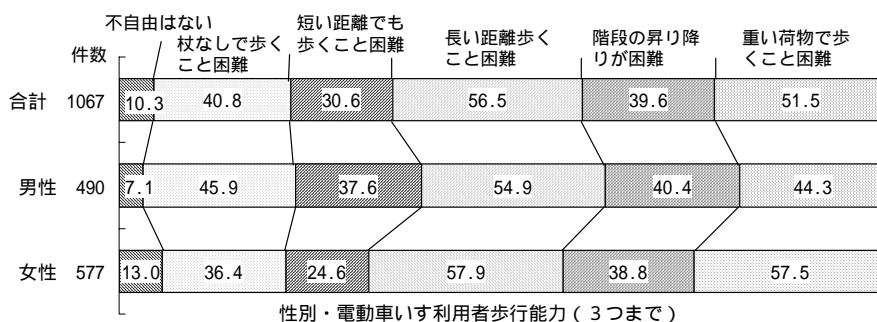
(2) 電動車いすで出かける距離

2キロ未満と比較的家に近い、家の周辺へ出かけているケースが58.1%と過半数を超えていることがわかる。出かける距離を性別の違いで見ると、男性の方がどちらかというと遠方まで出かけるケースが多く、逆に女性は家の近くで利用する傾向があることも理解できる。



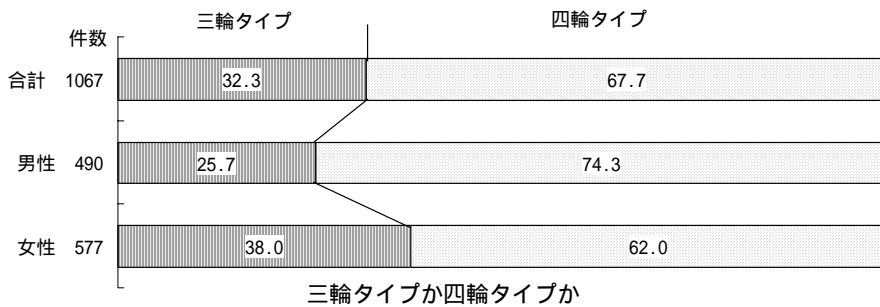
(3) 利用者の歩行能力

電動車いすを利用している高齢者のスクーター(ハンドル)型の歩行能力をみると、利用者全体では「長い距離を歩くことが困難」とする者が一番多く56.5%、「重い荷物を持って歩くのが困難」とする者が二番目に多く51.5%、三番目は「杖などがないと歩くことが困難」で40.8%、さらに「階段の昇り降りが困難」(39.6%)などとなっている。



(4) 三輪タイプか四輪タイプか

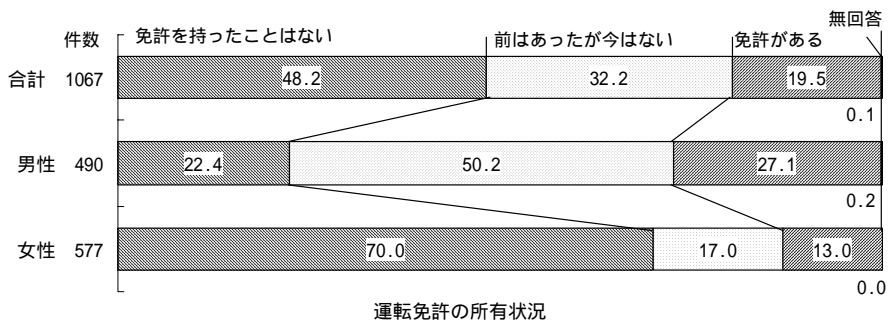
利用者が乗っている電動車いすのタイプ別でみると、四輪タイプの方が多く 67.7%、三輪タイプが 32.3%となっている。



(5) 運転免許の所有状況

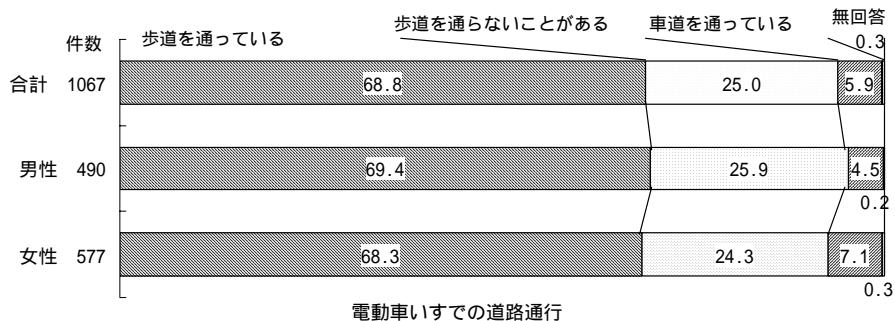
利用者全体では「免許を持ったことはない」と答えた者が半数を割る 48.2%、「前はあったが今はない」とする者が 32.2%、「免許がある」とする者が 19.5%となっている。

注目すべきは、男女による差異が極めて大きくなっている。



(6) 電動車いすでどこを走行しているか

歩道がある場合には「歩道を通っている」とする回答は 68.8%、「歩道を通らないことがある」と「車道を通っている」を合わせると 30.9%となっている。歩道があるのにそこを通らないことのある利用者が 3割となっている。



「電動車いすの安全利用に関する指導・教育プログラムの作成」委員会名簿

委員長 鈴木 春男 千葉大学文学部 教授

(順不同)

委員 兒玉 明 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 会長
 大角 良二 財団法人 全日本交通安全協会 常務理事
 田中 理 横浜市総合リハビリテーションセンター 企画研究室長
 筒井 昭 電動車いす安全普及協会 会長
 溝端 光雄 財団法人 東京都老人総合研究所
 介護生活基盤研究グループ 室長
 小島 幸夫 科学警察研究所交通部 部付主任研究官
 矢崎 秀 財団法人 日本車両検査協会 安全技術部長
 三木 克行 財団法人 日本交通管理技術協会 理事

ワザ-ハ 遠藤 顕史 警察庁交通局交通企画課 課長補佐
 中原 和雄 警察庁交通局交通企画課 係長

事務局 志賀 一順 財団法人 日本交通管理技術協会
 金子 和夫 財団法人 日本交通管理技術協会
 星 忠通 株式会社 福山コンサルタント